

「子供の接し方（母親の影響）」

シンポジスト

1) 「保母からみた小児歯科での子どもの発達と行動」

(九州小児歯科集談会)

水流みどり

2) 「小児歯科における、母子分離について」

(北九州市小児口腔保健研究会)

松本 牧子

3) 「治療中断患者の実態とその母親像について」

(オクト・ピド・グループ)

久我 裕子

4) 「母子関係の変化と歯科指導の展望」

(熊本小児歯科懇話会)

吉良 直子

5) 「治療後の説明について」

(長崎小児歯科臨床研究会)

松本 久美

6) 「母親の育児態度と小児の行動について」

(大分小児歯科研究会)

矢野 智香

家庭環境は子どもの性格と行動様式を形成していく上で一つの重大な役割を演じる、なかでも重要なものは母子関係であって母親の態度はすでに出生前の時期に間接的な影響を及ぼし、子どもの性格形成に微妙な影響を与える。子どもが新しい状況に直面した時、その状況に対応出来る迫られた場合の態度を決定する因子として、幼い時の母子関係のあり方は最も重要である。母子の特徴的な育児態度として、過保護・甘やかし・冷たい母親・拒絶的態度・権威主義に分類される。そして、それぞれの育児態度が歯科診療室での子どもの行動に微妙な影響を与える。母親の不安は歯科診療室の子どもの不安に関与する最大の因子となりうる。歯科経験そのものよりも家族から与えられた主観的印象のほうが、子どもにとってもより重要な恐怖の源泉になることもしばしばある。今回のシンポジウムでは、母親の行動・しぐさから育児態度を分析し、母子関係を検討し母親・子どもの最良な接し方を論じてみたい。